

地域活性化委員会 報告書

日 時	令和5年2月20日(月) 16:00~17:00	
場 所	俱知安町中小企業センター ホール	
出席者	委 員	柏谷委員長・佐藤副委員長・川上委員・脇山委員・山田委員 青木委員・門田委員・木村委員・上原子委員
	三 役	白木会頭・本田副会頭(担当)・榊監事・宮崎専務
	事務局	柳沢局長・尾田所長・菊池業務係
概 要	事務局から商工会議所の令和5年度事業計画の重点事項、令和4年度事業計画の実施状況について報告し、令和5年度の事業計画について協議した。	
内 容	<p>1) 令和5年度事業計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度推進した3つの事業について実施状況を報告した。 (1) 地域経済連携会議の開催 令和4年12月23日に開催した。 (2) 経営相談、起業・事業継承相談(Kbiz)の推進 令和3年度の部会で挙げた意見をもとに、俱知安町と協力して、これから創業したい人や、経営について学び直したい人を対象にビジネススクールを開講した。定員に対し応募が約2倍と非常に需要があったことから、令和5年度は新規受講者向けの初級編に加え、本年度受講者向けの中級編の開講を予定している。 なお、受講者に実施したアンケート調査からも、スクールが好評であったことが窺えた。 (3) 駅周辺や中心市街地まちづくりに関する情報共有・意見交換 本年度俱知安道路課題検討連絡会議が設立され、各WGで様々な検討がなされている。近く全体会議を開催予定であり、内容について今後委員会で共有予定。 <p>・以上の点を踏まえ、令和5年度事業計画について協議した。</p> <p>(柏谷委員長) 分科会で会員の経営状況に関する調査を定期的実施してほしいという意見があったので、調査項目について委員会で検討できれば。また、ビジネススクールのサポートも委員会でできればと思う。さらに人材育成について、起業や求人をする際受け入れ環境の整備は重要となる。この点は移住・住宅とセットで考えることとなるため、町と連携して解決していきたい。</p> <p>(上原子委員) 新幹線の駅名は「俱知安」でいいのだろうか。商工会議所でも議論の場がほしい。ニセコの知名度を考えると「ニセコ」の文字が入っていてもいいのではないか。</p> <p>(柏谷委員長) 現状のままいけば「俱知安」になるが、これに対して地域としてどう議論するかは会議所の運営根幹をなす部分でもあるため、事務局で預かってもらえればと思う。</p> <p>(山田委員) 観光協会理事で調査したところ「俱知安ニセコ駅」が多数であった。</p> <p>(柏谷委員長) 駅周辺の道路に関しても、地域の考えを行政やJRへ伝えなければならず、考えをまとめる必要があるが、町・会議所・観光協会が足並みをそろえて伝えないと、地域の声として扱ってもらえない。</p> <p>(本田副会頭) 開業2年前くらいに決定になると思うが、合作の駅名はやめてほしい。ローマ字で「NISEKO」が面白いと思う。</p> <p>(脇山委員)</p>	

リゾートに様々な企業が来て多くの事業所やホテルが開業しているが、地元の人はその中枢にはいられず、掃除などの末端の仕事ばかりとなる。それは地域として中間マネジメントを担えるような人材育成に力を入れていないから。倶知安高校と倶知安農高の生徒には一度外に出てもらい知識や技能を身に付けて戻ってきてもらいたいが、雇用は生み出せていない。例えば農高に定時制を設けて、社会人でも学べるような仕組みがあった方がいいのでは。

(柏谷委員長)

他所の企業でもマネジメント人材の育成はあるべきという声はある。

(白木会頭)

農高の生活環境課が定員割れが続いている。さらに半分を下回る状態が続くと廃校となってしまうので、まずは課が残れるようにしていかなければならない。前は色々な課があったが、例えば建設業で土木や建築を学べる学校は、後志管内では小樽しかない。しかし課を新設しても、入学者が少なかったり、教師がいなかったりしたら意味がない。そのため、既存の生活環境科のなかで他のことが学べるような募集の仕方ができないか考えている。

大学に関しては、スキー場エリアのホテルでは英語のニーズが多く、不足していることから、日本全国にある国際関係や英語を学ぶことができる大学に対し、冬期間だけでもサテライトキャンパスを設置し、ホテルなどにインターンシップをしてその後就職できるような仕組みを作られるよう、大学と提携できればと思っている。

(本田副会頭)

しりべし留学というものが既に行われている。40名程来ていて、就職の実績もある。振興局が行っているが、似たようなことを行ってお互い人を取り合っても仕方がないので、歩調を合わせる必要がある。

(白木会頭)

大学としても更地にキャンパスを新設してとなると費用が掛かるため、既存の建物が活用できれば興味を持つのではないか。

(柏谷委員長)

インターンシップも単位が取得できるところとできないところがある。〇〇日以上なら可というところもあるので問い合わせしてみてもどうか。

(門田委員)

飲食関係の視点から、コロナで落ち込んでいた飲食業界も、今では日によっては入れるところがない「居酒屋難民」がいる状態。対してタクシーが不足していることも課題となっており、タクシー運転手のなり手がいない状況。また、駐車場不足に関しても、試験的にくとさんパークを駐車場として開放しており、常時2~3台は停まっている。人手不足に関しては深刻であり、例えば子どもを夜預けられる夜間ワークのようなものがあればと思う。

(柏谷委員長)

飲食店組合で何か動きはないのか。

(門田委員)

飲食店組合は現在ほとんど機能していない。

(本田副会頭)

タクシー問題に関しては、先日札幌の大手タクシー会社が来所し、観光協会も含め意見交換をした。今後観光協会と会議所で、既存のタクシー会社にヒアリングをしつつ、特区的扱いにしてもらうような実証実験ができればと思う。例えばフルタイムではなく空いている時間に働くパートタイム制が導入できないか、など考えているが、どの委員会が担当すべきか悩んでいる。

(白木会頭)

特区内で白タクのように夏季の農業者やアプリで運転手を募ることができるような仕組みができればと思う。

(柏谷委員長)

飲食店組合が機能していないから商工会議所が飲食関係の問題を担うとなれば、

どういう体制で臨むべきか、どの委員会が担当すべきか。

(脇山委員)

飲食店の供給不足と、お客さんのタクシー不足と問題が2面ある。2つを別に考えないと、タクシー問題だけ解決しても意味がない。

(本田副会頭)

タクシー問題に関しては飲食店だけでなく、メインは住民の移動手段。次点でインバウンドを含めたお客さんの移動手段。札幌の会社が入れば簡単だが、札幌も運転手が少なく稼働率が非常に高いため、1人あたりの月収が100万あり、他の場所に行きたがらない。そのため本州から呼ぶことも考える必要がある。新幹線や高規格道路がくるなかの1つの移動手段として考えれば、当委員会が担当するのが良いのではないか。

(柏谷委員長)

店側の体制作りに関して、自社で求人活動をしていると、ごみ収集などは高校の人材育成とは別な問題となる。飲食店など地場に根付いた人材確保は、工業委員会で作るような建物も必要となる。マネジメント人材の育成も必要だが、そうではない根っこの部分の人材確保には当委員会が担当するべきだと思う。企業側の求人に対する勉強も必要だが、年々採用ルールや学生の傾向が変わっており、移住のハードルも高い。

(山田委員)

タクシー問題や宿泊施設など、その問題を検討する委員会を作ってはどうか。

(本田副会頭)

商工会議所と観光協会が町へ提案し、民間から町を巻き込むようなやり方だと運輸局も動きやすいのでは。どちらかというところこの委員会というよりはメンバーを募ってやるようなやり方になるのではないか。

(山田委員)

タクシー会社は町を超えて各町村の意見を聞けば、どういう対策ができるかわかる。IBSという東京の事業者がはじめヒルトンの専属かと思いきや、誰でも乗れるらしい。オフィスは高砂にあり、大型バスが2台、ハイエースが4~5台、アルファードもある。

(佐藤副委員長)

外部から来て働く場合、アパートの家賃が高額であることは1つ問題点である。例えば共同の宿舎を、ハードルを下げて町有地にできないだろうか。

(白木会頭)

若年者向けのアパートができれば、町外に住んで倶知安に働きに来るといった状況が少なくなるのではないか。

(本田副会頭)

まち会社準備室で石造り倉庫エリアに若年者住宅を建ててまち会社で運営する、という検討はしている。他には、例えば給食センター跡地を無償で借りて、立てるといったことも可能性としてある。

(柏谷委員長)

若年者ではなく高齢者住宅を地優賃などで公募したが、補助程度では成り立たず流れてしまっており、今年制度の改正は考えているようです。結局のところ、安く貸すということは誰かが損をするということ。

(木村委員)

今期の改選からこの委員会に入ったため、担当する範疇がまだわからない状況。はじめは商工業のことについてかと思いきや、非常に幅広く地域の活性化について検討しているのだとわかった。タクシーの話にしても、事業の展開ではなく町民目線での話なのかな、という印象。

学校の話でも、しりべし留学をしてくる大学生と倶知安高校生が交流することは行っているようです。浦幌町では地元で高校がなくなってしまい学生の流出が激しくなっている。一方他所からの流入も増えているようだが、地元の人が徐々に減って

いる状況。これに対して高校やサテライト大学によって、地域に根付いた人材を見つける必要がある。

駅名については、倶知安以外も含め、商工会議所や観光協会など地域の声を上げていくべきだと思う。

(青木委員)

問題は山積みだが、当委員会としては人手不足や住宅、事業者の育成、まちなか賑わい拠点から幅を広げて検討するのは厳しいのではないかと思う。

(柏谷委員長)

今回会頭が人材育成について強く取り組みたいという意向なので、今後どの委員会がどれを担当するかという取り決めがあると思う。

(川上委員)

倶知安町の年齢別人口が、ここ数年は1年120～130人くらいである。しかし今の0～1歳が100～110人まで減っている。倶知安高校の定員が160人ということで、町外から引っ張ってこないと充足しない。倶知安高校だけの定員を埋めることを考えると難しいので、ニセコ高校など近隣の高校も含めて考えていく必要がある。

(柏谷委員長)

ニセコ高校ではニセコ高校を立ち上げる会が発足し、寮を作りたいようだ。

(白木会頭)

ニセコ高校は町立なのである程度自由度がある。

(川上委員)

山麓の町村間で人の奪い合いをしても意味がない。もっと外から引っ張ってくる必要がある

(本田副会頭)

新幹線と高速道路が開通すると札幌が近くなる。今はリゾート目当てで来ている人が多いが、次は教育も考えられ、倶知安⇄札幌の通学が可能となる。

(柏谷委員長)

東京でも2時間圏内であれば交通費や住宅手当を支給するという企業もある。企業として考えるべきところと地域としてお願いしたいところがある。

(上原子委員)

新幹線が通ったら、高校生で偏差値の高い学校へ行きたいと思ったら、今までは小樽潮陵高校だったのが、札幌の進学校も選択肢に入るので、黙っていると流出する方が多いと思う。人口は減らないが、高校の定着率は減ると思う。

(榊監事)

様々な課題を抱え込むと進まなくなるので絞って取り組んだ方がいいと思う。

(本田副会頭)

マネジメントの人事育成として、ビジネススクールの初級編と中級編は座学メインだが、より実践的なことも扱っていくと良いと思う。

(脇山委員)

過去に高校生を集めてじゃが祭りを出店してどれだけ稼げるかのコンテストをやろうとした。そうすれば原価についてや売るためにどうするのかというマーケティングについてなど自発的に考えることをやろうとしたが、実際やるとなれば厳しい。

(柏谷委員長)

中学生くらいのカリキュラムだと可能かもしれないが、高校生となると、マネジメント系の勉強をしている生徒だとそっち方面へ広げて社長になったらどうするというような考えもできると思うが、どこまで時間を取れるか考えると難しいかもしれない。

(本田副会頭)

事業計画の中で、経営相談のところにツリー型で問題点等を挙げてみたらどうか。

以上の意見を踏まえ、令和5年度事業計画は令和4年度推進項目の3つに加えて、新規項目として「経営環境調査の実施、移住受入対策の推進」を追加する。

地域活性化委員会 報告書

日時	令和4年11月15日(火) 13:30~14:25	
場所	倶知安町中小企業センター ホール	
出席者	委員	柏谷委員長・佐藤(文)副委員長・佐藤(仁)委員・山田委員・脇山委員・青木委員・木村委員・高橋委員
	三役	本田副会頭(担当)・宮崎専務
	事務局	柳沢局長・尾田所長
概要	令和4年度の委員会活動について共有、倶知安町幹部との意見交換会テーマについて協議	
内容	<p>(1)委員会活動について</p> <p>委員長より、本年度推進する3つの事業について概要説明と状況を報告し、今後の事業活動について説明をした。</p> <p>(2)倶知安町幹部との意見交換会テーマについて</p> <p>今月24日に開催される町幹部との意見交換会の概要を説明後、当委員会意見交換テーマについて協議し、当委員会は下記4つに決定した。</p> <ul style="list-style-type: none">①まちの発展と地元産業のバランスについて②人手の確保について③タクシーを含めた地域の公共交通について④宅地・建物の条件付けについて	

地域活性化委員会 報告書

日 時	令和4年10月14日(金) 13:30~14:25	
場 所	倶知安町中小企業センター ホール	
出席者	委 員	柏谷委員長・川上委員・佐藤(仁)委員・山田委員・脇山委員 木村委員・金澤委員・我慢委員
	三 役	白木副会頭・本田副会頭(担当)・宮崎専務
	事務局	柳沢局長・尾田所長・菊池業務係
概 要	令和4年度の委員会事業の進捗状況について共有した。	
内 容	<p>(1)委員会事業進捗状況について</p> <p>本年度推進する以下3つの事業についての状況を報告し、その後意見交換をした。</p> <p>①地域経済連携会議の開催</p> <p>令和3年度は2回開催したが、本年度は未開催となっている。</p> <p>②経営相談、起業・事業継承相談(Kbiz)の推進</p> <p>令和3年度の部会で挙げた意見をもとに、倶知安町と協力して、これから創業したい人や、経営について学び直したい人を対象にビジネススクールを開講した。定員16名に対し応募が31名と需要過多であったことから、当委員会で推進するKbizの需要調査としてはいいスタートが切れたように思える。これをきっかけに、倶知安町と会議所で協力して進めるところは継続するが、委員会としては、ビジネススクール受講者へどのようなアフターフォローができるか、受講者を含め若年層が町内で起業できるような支援、町内の経済が活性化するための検討をすべきとの意見が挙げた。</p> <p>また、倶知安町中小企業振興基本条例についての勉強会を開いてみてはどうかとの意見も挙げた。</p> <p>③駅周辺や中心市街地まちづくりに関する情報共有・意見交換</p> <p>6月27日に倶知安道路課題検討連絡会議が設立され、各WGで様々な検討がなされている。11月にはWGの全体会議を開催予定である。</p>	

地域活性化委員会 報告書

日 時	令和4年6月27日（月） 9：00～10：15	
場 所	倶知安町中小企業センター ホール	
出席者	委 員	柏谷委員長・佐藤(文)副委員長・川上委員・佐藤(仁)委員 山田委員・脇山委員・木村委員・金澤委員・我満委員
	三 役	阿部会頭・白木副会頭・本田副会頭（担当役員）
	事務局	柳沢事務局長・尾田相談所長・菊池
内 容	<p>（１）くっちゃん道路課題検討連携会議について</p> <p>○本会議体を設立するにあたり、会議の目的や進め方について、情報共有及び意見交換をした。</p> <p>【目的・会議体について等】</p> <p>○目的については資料P1の通り。</p> <p>※本会議体はあくまで官と民の「情報共有」と方向性や手法の「検討」が目的であって、何かを「決定」するような機関ではない。</p> <p>→地域の考えや現状を「伝える」と「把握する」ことが狙いとなる。</p> <p>→本会議体から何らかの要望書を提出することはできず、要望がある場合は倶知安町や民間機関からなど、別の形で提出することとなる。</p> <p>【会議体に対する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議は主にWGによる検討となるが、それぞれのGLのファシリテートに関する勉強会を設けたほうが良い。 ・官民連携というが、どうしても官が占めるウェイトが大きく、様々な制約がある中で検討した結果、思い通りにならないということが懸念される。 ・本年度は「検討」としているが、翌年度以降も継続して会議を開く方向で考えているのであれば、まずは「意見交換」くらいの認識で参加するのがちょうどいいのでは。 ・年度ごとの目的や進め方などをロードマップにした方がわかりやすい。 <p>【今後について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料P7の通り。 	